

2024年12月7日

「支縁のまちネットワーク」

共同代表 岩村 義雄

主題聖句: 「主はこの母親を見て、憐れに思い、『もう泣かなくともよい』と言われた」

(ルカ 7:13 『聖書協会共同訳』2018年版)。

<序>

欧州最大の災害が2024年10月29日(火)にスペイン国で発生しました。日本のメディアは詳細に取り上げませんでした。神戸国際支縁機構・「カヨ子基金」は、11月9日に現地に実際に赴きました。午前6時前、最大の被災地点パイポルタはまだ未明でした。それでもものものしい警戒現場へ、警察、軍の車輜の脇を抜けて市街地に入りました。道か川か識別できないため、一般車は遮断されています。水害で覆われている100メートル離れたところに動く影がありました。その方は膝上までの長靴を履いておられました。滑らないように慎重に歩いています。町を脱出するのでしょうか。それにしても普段着です。おそらく人気のない時間帯に隣人が生き残っているかどうか確かめるために探しておられるのかもしれませんが。声をかけたくても距離があります。向こうまでとても渡れそうにありません。薄明の中、あきらめ、失望、無念の嘆息の息もよどんでいました。色は死んでいました。

災害報道により、ボランティアの本質は浮き彫りになります。30年前に1月17日5時46分、阪神間の大地は揺れ、地球の芯から咆吼していました¹。その時も、暗黒の闇で、色彩は茶色でした。グレーの雲でしょうか、霞が、団地の4階まで覆っていた情景が甦りました。わが家の生気が消失していました。通電していない冷蔵庫の扉も開き、遮ってトイレに行かせまいと冷凍室が飛び出していました。水道も一滴も出ません。揺り動かされたのは眠っていた〈天命〉なのか、〈使命〉なのかわかりませんでした。〈天祐〉の起点だったことは確かでした。救済の主旨に賛同するメンバーが周囲から起こされました。そのことが釜ヶ崎、難民収容センター、中東への一助の働きへの揺籃期の幕を開けることになりました。損得、名声、組織づくりとは無縁でした。無一文でした。

政府、地方自治体、関係機関は、被災者の救助、救援活動、避難所を通じて、復興、復旧、再建に取り組んできました。同時に、空前の数のボランティア、約137万人²が全国から馳せ参じました。

一方、2024年元日に発生した能登半島地震では、がれき撤去³、ドロ出し、昼替えには数多くのボランティアが必要です。しかし、行政が立ちはだかりました⁴。

日本風土にあったボランティア活動とは何でしょうか。「貧民街の聖者」と呼ばれた賀川豊彦[1888-1960]が「一人は万人のために、万人は一人のために」“One for all, all for one”と述べた概念が30年近くの間、風前の灯で消えかかっています。折しも、10月29日にスペイン・バレンシアで起こった水害への対応と比較しながら真のボランティアとは何かをご一緒に考えてみたいと思います。

¹ 拙論『『心の復興』がなおざりにされた阪神・淡路大震災』(『クリスチャントゥデイ』(2018年1月17日付)。

<https://www.christiantoday.co.jp/articles/25079/20180117/great-hanshin-awaji-earthquake-23-years-pas>

² 『ボランティア学研究』Vol.5 (山口一史共 震災ボランティアの^{のり}10^{のまち}年 国際ボランティア学会 2005年3頁)。

³ 神戸国際支縁機構の本田寿久理事長も能登ボランティアで狼煙町のゴミ集積所までがれきなどを運搬(2024年8月5日)。

⁴ 「能登への不要不急の移動は控えてください」(現在、個人のボランティアは受け付けておりません)。能登半島地震の発生から4日後、石川県の馳浩知事のX(旧ツイッター)公式アカウントが立て続けに発信。『中日新聞』(2024年7月9日付)。

目次

(1) ヨーロッパ最大の水害	
a. スペイン・バレンシアのパイポルタ	3
b. 老いも若きもホーキ、バケツ、ちり取りをもってかけつける	3
c. すべてを失った女性	5
(2) 1.1 大震災の能登のうめき	
a. 官僚式発想では「官」の復興ができて「民」の復旧はない	6
b. 消滅集落の生き埋めの残酷さ	7
c. ボランティアは文化になったか	10
(3) ボランティア文化の継承	
a. 苦縁	11
b. コメは自給自足に	13
c. 南海トラフに備えて 「土」に還る	14



被災家屋からのがれき撤去、ドロ出し、家財道具や片付け、土嚢設置などの活動
パイポルタ 2024年11月11日。左から2人目 佐々木美和。

(1) ヨーロッパ最大の水害

a. スペイン・バレンシアのパイポルタ

「すべてが終末のようだ」と英国のオンライン紙『インデペンデント』(2024年10月31日)は報じました。スペイン⁵の洪水被害者は、2024年10月29日、10分も経たないうちに家全体が水に浸かった、と。雨が降っていなかったにもかかわらず、突如3メートルの洪水がパイポルタ地区を襲いました⁶。

パイポルタは最大の被害地点です。約205名の犠牲者のうち、80~90名が亡くなっています。

神戸国際支縁機構・「カヨ子基金」のスタッフが現地に着いた11月9日、パイポルタは一面茶色でした。水害は本来水色のイメージです。「幾時代かがありまして 茶色い戦争ありました」⁷という本を彷彿させるものがありました。2015年4月のバヌアツ国ポートビラ、同年5月のネパール国カトマンズ、2017年12月のレバノンの光景も茶色一色でした。本来、スペインは欧州でも有機農業が盛んです。バレンシアは首都マドリードの東南約360kmにあります。スペイン第3の都市です。食べる機会はありませんでしたが、「パエリア」料理が有名です。朝7時から「中央市場」が開いており、新鮮且つ大きな野菜、トマトは日本ではひとつ200円、一方、バレンシアは日本の3、4倍の大きさに100円でした。魚介類の鮮度を保つため5メートルほど一面の氷と、せわしく動く店員たちの活気と格闘に目を奪われました。カビ色の模様があるチーズなどを店員に尋ねているだけで半時間が過ぎます。安全な食の店が多数並んでいます。日本では市場が消えているのと対照的に、寒さを吹き飛ばす勢いがありました。有機農法だから農薬など気にせず、口にできるのは恵みでした。

バレンシア中心部から最大の被災地まで、交通機関である電車、バスが利用できません。徒歩で約8キロです。パイポルタ住民の所有している車は全滅といってよいほど、水害に飲まれていました。

b. 老いも若きもホーキ、バケツ、ちり取りをもってかけつける

バレンシアでは近隣、各地からボランティアがシャベルやバケツ、食料やおむつを積んだショッピングカートなどを持って、浸水した郊外の困窮した近隣住民の支縁を開始しました。日本と異なり、行政が管理することはありません。老若男女を問わず、自発的に集まってきておられました。



ドロ出し パイポルタ 11月11日



家財運び出し パイポルタ 11月11日



イスラーム教のボランティアも一緒 12日

3.11以降、神戸国際支縁機構は国内被災地の活動でも、同様の惨状を見てきました。福岡県

⁵ スペインは1492年1月に樹立。「太陽の沈まない国」と呼ばれたほど権勢を誇った。スペイン帝国は南米、フィリピンなどを植民地化した。日本にもフランシスコ・ザヴィエル[1506-1552]が1549年に日本宣教した。拙論『「イエスはだれも改宗させなかった」—『聖書』のことばシリーズ第51回—(神戸新聞会館 2017年 2-5頁)。

⁶ 動画撮影 <https://youtu.be/GD8RjbnY3BY>
<https://www.youtube.com/watch?v=iLppUXSkivA>

⁷ 『サーカス』の出だし。中原中也[ちゅうや 1907-1937] 詩人・歌人・翻訳家。

朝倉市^{はき}杷木町^{ますえ}松末(2017年7月5日の豪雨 死者40名不明2名)、岡山県倉敷市^{まび}真備町^{やた}箭田の洪水(2018年7月7日)では、瀬戸内海から約20キロ内陸にある真備町で74人が犠牲になりました。それも二階の天井にまで届く6メートルにも及ぶ水害でした。北海道胆振厚真川地区[厚真町^{あひらちよ}・安平町^{あひらちよ}・むかわ町](2018年9月6日)では死者42名、負傷者762人に及びました。

河川の氾濫の原因を異常気象(地球温暖化)、熱帯低気圧、地震のせいにする報道の見出しが飛び交いました。しかし、筆者の場合、実存的現在を社会的ディアコニア⁸の実践の中で考えてきました⁹。コンクリート河川¹⁰、ダム¹¹、森林放置¹²が自然生態を破壊する元凶と繰り返し発信してきました。

自発性、無償性、対話性はボランティア道の基準です¹³。日本のSNSの世界で飛び交うボランティア批判があります。たとえば、“タダで働く人は労働者とは言えない”，と批判されたりします。自発的なボランティアは報酬を目的にして被災地で取り組んでいるわけではありません。また、行政の御用聞きではありません。自ら必要の大きな場所を自分で見つけます。がれき撤去、ドロ出し、畳替えをします。「お上」から指示されてするものではありません。管理社会から人間解放へと価値観を戻すようにと考えてみますと、ボランティアが有償であってはいけないという根拠に気づかれると思います。根拠に覚醒するでしょう。産業革命以降、社会は科学技術の発達を目指してきました。今も、リニア建設¹⁴が「世界最大級の活断層地帯」という自然破壊を無視して進められています。より高速移動が可能になる夢を追っている技術者、官僚、政治家がいます。しかし、ボランティアは無報酬だからこそ、富の奴隷、名声欲、権勢によらず自由に動けるのです。

スペインは財政が苦しいから行政、自治体、個人はタダのボランティアを活用しようとしたのでしょうか。いいえ。スペイン全体の平均月収は年々少しずつ上がって1,695€(約24万円)です。

“無報酬で働くという考えは失業者を生むだけです”という揶揄は失業者に対する偏見です。中にはハンディキャップ、無学歴、無資格のため就労できない場合があります。そうした失業者とも共に生きていける社会づくりのひとつがボランティアです。報酬が高ければ、立派だという優生思想のエートスが津久井やまゆり園事件のような人間差別を生み出したのではありませんか。つまり排除思想です。

パイポルタの自発的ボランティアは「宗教的で嫌いです」という反応を示す日本人がいるかもしれません。なぜなら1995年のオウム真理教地下鉄サリン事件、2022年の安倍晋三元首相暗殺と、メディアが書き立てる宗教2世3世問題が尾を引いているのです。しかし、パイポルタにかけつけたボランティアそれぞれを突き動かしたものは何かを深慮すべきです。スペイン人であるかどうかは関係ありません。心の内面に通底している次元について斟酌しなければなりません。「民」には想像の域を遙かに超えた価値観があります。それは多くの場合、宗教意識やそれと関わる自然観、

⁸ 神戸国際交縁機構の事務局長佐々木美和の大阪大学大学院人間科学研究科の博士論文「現代日本の宗教者と非宗教者の共生に関する研究」(2021年3月)の70ページ。“言葉での宣教ではなく行動での「包括的な福音宣教」のために「社会貢献」を行い「地域に仕え」ていく「仕える教会」(ディアコニア)であるべきであると述べられ、そこからさらに「共に生き」ていくべきだと述べられている。”つまりディアコニアとは、「見るに見かねて行う他者への実践」と言えよう。(68ページ)。

⁹ キリスト者政治連盟[キ政連]の木村公一常任委員の論評。拙論「シオニズムの興隆こそ叫喚に値する」(2024年8月25日21頁)。

¹⁰ 拙論『川と人間の相克と共生』(『福音と世界』誌 新教出版社 2022年12月号33頁)。

¹¹ 「ダム・河川行政・無駄な公共事業を考える」(嶋津暉之 2020年)。 <https://watersaitama.blog.fc2.com/blog-entry-359.html>

¹² 大農場、大型機械、化学農薬を散布するドローンなどとは無縁です。なぜなら森林、田んぼの畦(あぜ)にいるすみれ、シジミチョウ、石ころ、景観などすべてが生きている権利を有する隣人だからです。拙論「原発は子々孫々に禍根を残す—第4次1.1大震災報告」(エラスムス平和研究所 2024年3月9頁)。拙論「動物への謝罪と責任—人類と自然の共生への時代—」前半(いのち会議 大阪大学SSI 2024年7月4日)「土地倫理」の視座から、森林も解放されるべきです。

¹³ 第26回宗教者災害支援連絡会(宗援連)東京大学本郷キャンパス「水平の運動」から、垂直の活動」に—2016年3-7頁。 <https://kicc.sub.jp/wp-content/uploads/2016/05/33ddb942723595e25a1137ecc35bf3c.pdf>

¹⁴ 小林一哉[1954-]「ウェブ静岡経済新聞」編集長。『PRESIDENT』Online(2024年7月23日)。南アルプスのリニアトンネル工事は不確実性の高い難工事。「岐阜・水源の水位低下 JR 東海へ不信心 工事中断で住民との溝深く」(岐阜新聞)、「山梨・実験線延伸で水枯れ 井戸管理費用の補償30年方針 将来の不安残る」(山梨日日新聞)、「長野・長引く工事で住民に負担 住宅移転も駅完成遅れ 沿線自治体に不安が広がる」(信濃毎日新聞)、「神奈川・最も工事進む 夢と現実のはざま 住民の暮らしに影落とす 立ち退きの犠牲」(神奈川新聞)。

歴史観，死生観，宇宙観を内包しています。文化，伝統，風俗習慣に連綿と継承されてきた深層のイズムが人を突き動かしました。宗教意識が原動力になった，と社会思想家佐伯啓思 [1949-]は論じます¹⁵。

「宗教」を嫌うのは個人の自由です。しかし，被災地で家屋，家族，友人などを喪失した人たちを慰める宗教の役割があります¹⁶。心の喪失感を埋めるのは金銭では解決できないからです。神社の氏子¹⁷ではなくても，日本人は，「お守り」，パワースポット，聖地など抵抗なく受け入れています。したがって，他者のために行動するボランティアの内的な要因は利他主義です。利他主義とは，「社会通念に照らして，困っている状況にあると判断される他者を援助する行動で，自分の利益をおもな目的として行動しない」¹⁸，と大阪大学大学院教授の稲場圭信先生は註解されています。

家族，家屋，友人を喪失して悲嘆にくれる被災者に寄りそうことは心の復興になります。「他者の痛み」を想像する思考力，包容力，感情移入が人々をボランティア活動に向かわせるのです。

c. すべてを失った女性

水害に遭わなかった家屋はないパイポルタ市で，水たまりにも気づかず，気力なくとぼとぼと歩かされている女性がおられました。放心状態であることは足取りからうかがえます。非言語コミュニケーション¹⁹で対話します。スペイン語ができなくても，身ぶり，声の色，笑顔で対話します。災害の喪失感に寄り添います。徹底的に相手の立場を察知します。



ドーラ・オルティエシ(68歳)さんはとつぜんの洪水に多くを失われ、怯えておられました。パイポルタ市 2024年11月11日。

傾聴ボランティア ロサさん(69歳)。
佐々木美和事務局長。

¹⁵ 「神なき時代の『終末論』(佐伯啓思 PHP新書 2024年 210-211頁)。

¹⁶ 筆者は、「キリスト教と復興」(関西学院大学 2021年 4頁)で、ネガティブ・ケイパビリティについて次のように語った。「帚木蓬生 [ははきぎ ほうせい 1947-] 小説家，精神科医によると、『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』負の能力もしくは陰性能力。「どうにも答えの出ない，どうにも対処のしようのない事態に耐える能力」。日本宗教学会第 77 回学術大会の『宗教におけるケアとケア』の報告書で，倫理学会会長の宮本要太郎は，「ケアは，ケアする側とされる側がお互いに関わる『縁』として捉えられうる。両者の思惑を越えたところに成立する点で，ケアは超越的である。ケアとは，するものではなく，なっていく(生成していく)ものである(ケアの「境地」)。そこにふさわしいのは，positive capability ではなく，negative capability である」と。(『日台韓における社会的孤立者に対する宗教者の伴走型支援活動に関する調査研究』宮本要太郎 2020年 74頁)。

¹⁷ 神社の維持について義務を負ふ信者を，慣例に従ひ，当該神社の「氏子」又は「崇敬者」といひ，氏子又は崇敬者名簿に登録する(『宗教法人神社本庁規程』第 99 条)。

¹⁸ 『助ける』(渥美公秀・稲場圭信 大阪大学出版会 2019年 55頁)。『利他主義と宗教』(稲場圭信 弘文堂 2011年 44頁)。稲場圭信は日本人の「無自覚の宗教性」があることを指摘。拙論「キリスト教と福祉—新型コロナウイルスの救い」(神戸国際キリスト教会 2020年 8頁)。

¹⁹ 拙稿『本の広場』(2020年 9月号 1頁)「書物を持って来てください」。

ボランティア道は、臨機応変に千変万化の対応が求められる場合があります。たとえば、ドロだしせんべんぼんかをしている場面に独居の高齢者がおられるなら、スcoopなどを置いて、寄り添います。なぜならたいせつな家族を亡くして悲嘆にくれておられるかもしれないからです。災害は無縁社会、孤族、孤独に追いやる暴力です。何も手につかないのです。世界どこでも同じです。日本の自宅で死亡なされた1人暮らしの人は全国で3万7227人(暫定値)。そのうち65歳以上の高齢者は2万8330人おられます²⁰。震災による寂しさも二通りあります。人の気配がなく、ひっそりとしているさまを漢字で書くと、「寂」=「さびれてひっそりとしていること、静かなこと」です。もう一方の漢字は、「淋」=「水が絶え間なく滴り落ちていくさま」を語源通りに、涙が止まらないほど悲しく心が締め付けられておられます。キリストは西暦一世紀に、「また、群衆が羊飼いのいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた」(マタイ 9:36)の「深く憐れまれた」(ギリシャ語 σπλαγχνίζομαι スプラクニゾマイ *splagchnizomai*)²¹の感性です。日本語に適切な言葉がありません。琉球語の「チムグルシー」[チム(肝)がグルシー(苦しい)]が適切かもしれないです。つまり、単にかわいそうに思う気持ちを言い表すものではありません。人の痛みの中に自分の痛みを見出し、心の奥深くにある哀しみを共感する感受性です。「心が満たされず、もの悲しい気持ち」の方に、寄り添うのに資格はいりません。微笑みがあいさつです。まず被災者の傍まにいることが、恐怖の記憶、喪失の悲哀を安心な空気で包むことにつながります。同じ空気を吸う「間」,「場」,「時」が糸口になります。徹底的に相手側の状況や都合に合わせさえすればいいのです。雄弁, 知識, 体力は求められていません。アフリカのジャングル, 砂漠地帯, ヒマラヤの山岳地帯でも通じ合うことが可能です。学校で、言語を学んだこともなければ、裸足, 風土病でお腹が大きく膨らんでいたりします。

キリストの「見て、憐れに思い、『もう泣かなくともよい』と言われた」スピリチュアリティ(精神態度)でいいのです。教師, 有資格者, 聖職者でない方がいいのです。なによりも、真の友になれる人, ただ、それだけです。私たちのグループの野田健二さん(74歳)は、幼い時に話すことに障がいを受けたのでしょうか。人と対話することが不得手です。しかし、初対面であっても、相手の緊張の殻を破られます。彼の笑顔は身構える人の心の砦を開門させます。モノを売る営業マン, 宗教の勧誘, 苦情を言うためにやって来たのではないと、瞬時にして安心させます。

ボランティア申込み者の登録, 管理, 服装などをチェックするのは、机の上の業務です。被災者はそんな合格者を待っておられません。

1.1 大震災からの能登半島の悲劇を教訓にして、パイポルタのような理想への脱皮が求められます。

(2) 1.1 大震災の能登のうめき

a. 官僚式発想では「官」の復興ができて「民」の復旧はない

スペイン・バレンシアに行く直前, 11月9日の神戸新聞第一面を見て、能登の復旧が遠のいた、と目の前が暗くなりました。「災害ボランティアに交通費」という大きな見出しです。

未曾有の災害に見舞われた輪島市, 珠洲市, 能登町。9月21日の水害で、田んぼ, 家屋, 仮設住宅も諦めねばならないところまで追い詰められています。いわゆる二次被害にまで尾を引きました。珠洲市大谷町浄土真宗東本願寺こうえい廣榮寺²²の左に隣接する浄正寺において9月21日の災害で貞廣和江さん(79歳)が生き埋めになりました。被災家屋からの家財道具や農機具の搬出, 瓦の片付け, 土嚢設置などには重機ではむづかしく、人海戦術が最も功を奏します。筆者も東日本

²⁰ 『毎日新聞』(2024年11月22日付)。

²¹ 拙論『「共苦」被災地福島を訪問して』(神戸国際キリスト教会 2014年3頁)。「あなたの民があなたに対して犯した罪、あなたに対する反逆の罪のすべてを赦し、彼らを抑らえた者たちの前で、彼らに憐れみ [ラハミム]を施し、その人々が彼らを憐れむようにしてください」(1列王 8:50)と旧約で書かれている憐れみ[ヘブライ語 רַחֵם ラハム *racham*「憐れみ, 同情, 子宮, 胎」]も新約と同じ。

²² 珠洲市真宗大谷派廣榮寺住職の大廣永世さん(55歳)は1月1日にドロの中で絶命なされた。

大震災時に3台の重機を神戸から運搬しました。しかし、家屋の細かい作業にはユンボ²³は不向きです。有資格者ゆえに操縦に携わって、宮城県石巻市渡波、伊勢町、黄金浜では復旧は重機で朝から晩までがれき撤去しました。しかし、家の解体、復旧のためには、マンパワーが必要でした。つまり、重機は道路、橋、鉄橋など〈復興〉には有用です。損壊した部屋、天井、トイレなどの〈復旧〉には不向きです。ただし、丹波水害(2014年8月15日)では背面の山崩れで^{こぼ}毀れた丹波市石像寺²⁴(佐久間正昭住職)の広い本堂においてボランティアに仕えた時、ドロ出しに重機は有用でした。

結局、1台は宮城県石巻市役所建築課の牡鹿半島用に寄贈しました。農業用の機械と同様、効率、能率、便利さは現代の鬼門です。

神戸大名誉教授の室崎益輝(79歳)は、石川県の災害危機管理アドバイザーを務めておられます。1月6~7日に能登入りして、「初動に人災」、「阪神の教訓ゼロ」とクリティック[批判]されています²⁵。民間の支援者やボランティアが駆けつけることを国、県知事が制限していたことに苦言を呈しておられます。「でも、初動から公の活動だけではダメで、民の活動も必要。……マンパワー不足と専門的なノウハウの欠如で、後手後手の対応が続いてしまっている。政府は『お金は出します』というリップサービスではなく」と痛烈に批判されました。

年に数回、大型バスをチャーターして、国から予算をとり、被災地へ団体で行く目的で人員を募集。経費を参加者に負担させまいと宣伝したりします。企画、運営、人件費だけでも膨大です。そんな財があるなら、復旧できない倒壊家屋に予算を回すべきです。「来てくださるのは、うれしいです。でも、また、『来ます』と手を振って帰られるけど、それっきりです」と宮城県石巻市で校長職を歴任なさった阿部捷一さん(79歳)は言われました。与える側の都合より、受ける側の感情を汲みとる繊細さが求められます。「民」より「官」の満足のための事業になっていないか吟味すべきです。

b. 消滅集落の生き埋めの残酷さ

阪神・淡路大震災の時のような自発的なボランティアが現場で求められています。しかし、能登半島ボランティアは行政によって抑止されました。一方、専門家ではない志願者がスペイン国パイポルタではひしめきあっていました。

能登半島でもパイポルタのように大群衆のようなボランティアがいれば、個の復旧がはかどったにちがいありません。12月1日に訪れた珠洲市大谷町は雨天にもかかわらず、ようやく解体の槌音があちらこちらで聞けるようになりました。しかし、大谷町はいたるところがドロで覆われています。

土砂で埋まったパイポルタからドロをだすには人海戦術が必要でした。老いも若きも、若い女性たちもホーキ、バケツ、ちり取りをもってかけつけてきました。それも、約10キロ、20キロを歩いてやって来られたのです。組織で動いていません。みんな自発的な動機でかけつけていました。



廣榮(こうえい)寺本堂 2024年5月6日



左の浄正寺。9月21日、貞廣和江さん(79歳)生き埋め。



12月3日、だれも3つの寺に近付けません。鐘楼のみ。

²³ キャタピラー付きの台車にショベルが付いた重機。1964年の東京オリンピックの頃、土木建設業界で浸透。フランスのシカム社の「ユンボ=Yumbo」の技術供与を得て、三菱重工が製造。

²⁴ 拙論「第6次丹波水害炊き出し」(神戸国際キリスト教会 2019年8頁)。

²⁵ 『朝日新聞』(2020年1月14日付)。

輪島市内では、生き埋めが 100 件を超えるとの見方があります。門前町高根尾の渡辺重光さん(70 歳)方に消防隊員らによる救助が入ったのは、地震発生から 3 日後のことでした。家から運び出された秋美さんの体を、渡辺さんは、もう一度さすりました。「寒かったやろ。早く出してやれんで、ごめん」。声が震えていました。

4 日午前 9 時ごろ、がれきの中から運び出された妻の秋美さん(65 歳)と、約 70 時間ぶりの対面を果たされました。

「村の人がすぐに助けに来るから」。渡辺さんはがれきの下で、寒がる秋美さんの体を手でさすり、一緒に助けを待たれました。しかし、秋美さんの体はだんだん冷たくなり、しばらくして声がしなくなりました²⁶。

人を亡き者にしようとする場合、古今東西、様々な処刑法、最も忌まわしい、屈辱的な殺し方がありました。中国の白起²⁷ [生年不明-紀元前 257]は趙国[紀元前 403-紀元前 228]の敵軍およそ 40 万人²⁸を坑殺(生き埋め)にしたと伝えられています。アレキサンドリアのキュロス²⁹により、ヒュパティア[370-415]³⁰も残虐に貝で肉を引きちぎって殺された話が有名です。キリストの処刑も残虐³¹でありました。

筆者は、人類史上、「生き埋め」³²が最も残酷な死に方だと考えています。「生き埋め」の残酷さは宮城県石巻市渡波をはじめ、熊本地震、厚真地震で目撃してきました。即死ではありません。柱などの下敷きになり、身動きがとれず、体力、気力がなく、声も出ず、激痛からも逃れられません。息も絶え絶え、悶絶から楽にならず、身体は冷凍漬け、血液まで凍結していきます。一般的に家屋などの下敷きであれば、72 時間³³以内の救出³⁴が生命存続の鍵です。

イスラエルが 210 万人のガザ³⁵の人々を餓死させようとしているのと同じです。蛇の生殺しです。

死に顔³⁶は土色です。すごい形相でした。旅立つ死者への手向けゆえに手を合わせます。

死後、死者に行き来できない境界線があるのでしょうか。「死んだ者にも福音が告げ知らされたのは、彼らが、肉においては人として裁かれても、霊においては神のように生きるためです」と使徒ペトロは西暦一世紀に語りました。「死んだ者」(νεκρός ネクロス nekros<「死んでいる」の意>)とは、

²⁶ 『北國新聞』(2024 年 1 月 5 日付)。

²⁷ 『史記 全 8 巻セット』第 5 巻 (司馬遷 小竹文夫、小竹武夫訳 ちくま学芸文庫版 1995 年 210-211 頁)では、白起が降伏した趙兵を「詐を挟み、尽く之を坑殺す」。冷酷な白起が趙軍の降伏兵を大量に「生き埋め」(坑殺)した。約 40 万人。記録があるとはいえ、誇張による政治的意図と岩村は考える。ちなみに、「坑殺」と兵馬俑坑(へいばようこう)を現段階では結びつけるのは無理がある。

²⁸ 司馬遷[紀元前 145 年頃-前 86 年頃。前漢時代の歴史家 宦官]は『史記』の著者。司馬遷著原典『史記』(「白起・王翦列伝」(巻 73, 列伝第 13)に白起が登場。『白起』(塚本青史 河出書房新社 1998 年 412-426 頁)。

²⁹ 教会博士と尊崇されているが、過激な宗教指導者。『新カトリック大事典Ⅱ』(新カトリック大事典編纂委員会 研究社 1998 年 278 頁)。拙論「キリストはキリスト教だけのものではない」(第 1 次トルコ災害ボランティア報告 2020 年 7 頁)。

³⁰ 女性哲学者ヒュパティア[370-415] 優れた数学者・哲学者として弟子から政界と宗教界に要人を輩出しつつも、政治的対立に巻き込まれ、アレキサンドリアのキュロスによって非業の死を遂げたと言われている。拙論「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すかー第 3 章ー」(WCRP 平和大学講座 2022 年 16 頁)。

³¹ 刑場にはすでに十字架の縦木は立っているのが常だった。そこで囚人は、……両腕を釘(そのばあいは手の甲ではなく、手首に打ち込む)ないしは縄で固定され、縦木の上に据えられる。普通、十字架刑に処せられた者は、1~2 日かかって、窒息(asphyxiation)、ないしは血液量減少性ショック(hypovolemic shock)によって死に至る(イエスはしかし、約 6 時間後には絶命したという)。岩波訳『マルコによる福音書 マタイによる福音書』(佐藤研[みがく] 岩波書店 1995 年 補注 5-6 頁)。

³² 拙論「ガザは能登より光が届かないーパレスチナ問題を考える」(「みんなで考える 9 条・明舞の会」世話人代表 2024 年 2 月 12 日 生協会館 4-5 頁)。

³³ “Emergency Medical Services Intervals and Survival in Trauma: Assessment of the “Golden Hour” in a North American Prospective Cohort” Published:September 24, 2009 <https://doi.org/10.1016/j.annemergmed.2009.07.024>

³⁴ 体が土砂、天井、柱で胸部が圧迫され、呼吸できなくなる。心臓、血流に負担がかかる。能登半島の場合、急峻な山、すぐに海の地形が多く、山の土砂が気道をふさぐ。気道閉塞である。酸素が肺に届かなくなり、窒息状態。数分で意識を失う。その際、ショック状態、心停止、完全な窒息をもたらす。意識がなくても、応急手当としては空気の通り道をつくる。消防団、レスキュー、医師がくるまでの必須の応急手当(First Aid ファースト・エイド)できる可能性もある。ボーイスカウトなども中学生の年代から学んでいる。

³⁵ 拙論「ガザは能登より光が届かないーパレスチナ問題を考える」(「みんなで考える 9 条・明舞の会」世話人代表 2024 年 2 月 12 日 生協会館 4-5 頁)。

³⁶ 死の恐怖、激痛、身動きができず、救出の見込みがない場合、死後に苦悶、恨み、怒りの表情がある。とても直視できないが、一日ほどを経ると和らぐ。

霊的に死んでいる、必ずしも幸福なまま息を引き取ったとは限らない場合があります。天国に凱旋する者ばかりではありません。闇のネクロスにもキリストの「福音が告げ知らされた」とありますように、生者が無念の内、激痛、極寒、孤独死の死者を思いやるのは礼です(I ペトロ 4:6)。沈潜した悲しみへのエンパシーempathy³⁷が現場に寄り添う精神態度と言えます。

セム語にも精通されていました。セム語には最上級がありません。マタイの福音書 25 章 40 節における最も小さくされたもの³⁸の一人とは、ギリシャ風の表現だろうと深津は推測しました。そして、まるで神が「理屈」をつべこべと言わずとにかく誰でも一番重そうな者を担げと言われている気がする、と述べています。深津は底点志向³⁹という言葉をつくり出しました。

有償ボランティアの発想自体がボランティアの本来の在り方をだめにしています。鵜飼の漁師のように親元が操縦する仕組み、体制、システムでは被災地は救われません。

パイポルタは、専門家ではない志願者でひしめきあっていました。

日本との違いは、パイポルタでは個々の〈復旧〉に幹旋人(名誉欲、天下りの生活保障、支配欲の塊)、プロ(おカネ儲け、物品販売、レンタル業)を見かけませんでした。ボランティアを仕切る組織・指示系統・マニュアルもありませんでした。



バレンシア
2024 年
11 月 2 日
CNN。

阪神・淡路大震災のボランティアの功労者に草地賢一[1941-2000]牧師がおられます。彼の後継者村井雅清さんは、1 月 2 日以降、石川県七尾市に入られました。「被災地 NGO 協働センター」の「孤立集落が点在する今回こそ、阪神大震災の時のように、一人一人に寄り添う細やかな支援が必要だ」⁴⁰、と語られました。草地賢一初代代表は、強調されていました。「行政だけが『公』を担うのではなく、『民』が主体性をもって、福祉、環境、人権などの解決にあたり、政策提言をしていく」突破口が開かれたのです。阪神・淡路大震災が『ボランティア元年』と言われる所以です。『公共の福祉』とは『他人の人権』を意味するという理解が従前の通説です⁴¹。しかし、本来、行政が担当するサービスまでがボランティアに丸投げにされたり、ボランティアが行政の下請け、御用聞き、補完になってしまう危険性と背中合わせで来たのです⁴²。行政や社会福祉協議会による手厚い支援が続きますと、ボランティア本来のアイデンティティである主体性・公共性・無償性がトーンダウンし、受身の活動になってしまいます⁴³。草地牧師のキーワードを心に刻みたいものです。「いわれなくてもする、いわれてもしない」、とは意味深長です。

社会学者の村田充八さんは「自立的共生Conviviality」⁴⁴が共生社会の鍵と述べています。

自立的共生とは、「人間的な相互依存のうちに実現された個的自由であり、またそのようなものとして固有の倫理的価値をなすもの」とイヴァン・イリッチ[1926-2002]の論のたいせつさを指摘しています。

³⁷ 「エンパシー empathy」は、他人と自分を同一視することなく、相手の意志や心情を汲むこと。シンパシーsympathy は、相手の考えや感情、境遇に心を動かされ、自然に湧き上がる感情。「哀れむ」「気の毒に思う」という概念を含まない。

³⁸ 「災害と共生」佐々木美和『栗林輝夫セレクション 1 日本で神学する』(書評)栗林輝夫 西原廉太著 大宮有博編 2023 年 16 頁)。

³⁹ 『信徒の友』(日本基督教団出版局 1983 年 3 月 26 頁)。

⁴⁰ 『中日新聞』(2024 年 1 月 17 日付)。

⁴¹ 『阪神大震災と国際ボランティア論』草地賢一の歩んだ道(『草地さんの仕事』刊行委員会 エピック 2001 年 98 頁)。

⁴² 『ボランティア精神を語る』(草地賢一 神戸医師協同組合発行・神戸医協ニュース 1997 年 5 月 1 日～12 月 1 日号連載)。

⁴³ 拙論「キリスト教とボランティア道」—水平の〈運動〉から、垂直の〈活動〉に— (宗援連 東京大学 15-22 頁)。『日本近代文学と聖書』(大田正紀 一麦出版社 2023 年 16 頁)。「最後の一句」(1915)に見られるように、「官」と「民」の対立は森鷗外文芸の主題をなすものです。無実の信徒を虐殺した「官」の非道もさることながら、傍観するしかなかった「民」の記憶が、終生鷗外の精神的外傷(トラウマ)として残っているように思われます。

⁴⁴ 『キリスト教と社会学の間』(村田充八 晃洋書房 2017 年 45-46 頁)。イリッチは拙論「民主主義の限界に翻弄する人類—ウクライナ戦争やトルコ・シリア大地震を通して」(関西大学 2023 年 13 頁)。

c. ボランティアは文化になったか

日本経済新聞は阪神・淡路大震災 30 年を迎えるにあたってのボランティアについて発信。「今年元日の能登半島地震では『ボランティアの自粛』を巡って議論が起きた。大阪大大学院教授の渥美公秀さんが1月、学生に能登に行く話をすると、『先生、SNS でたかれますよ』『今一緒に行ったら悪人のように言われる。恐くて行けません』という答えが返ってきたという。道路が寸断され被災地の受け入れ体制が整わないことなどから、石川県が個別の来訪を控えるように呼びかけたことが影響していた。『行かないことが支援』という言葉まで SNS で広まっていた。阪神・淡路大震災で被災した渥美さんは災害社会学の研究に深入りし、2004 年の新潟県中越地震や 11 年の東日本大震災などの際は被災地に駆け付け、支援の実践を通じてボランティアの研究をしてきた。『困っている人を助けたい』と臨機応変に対応するボランティアと、活動に秩序や統制を求める行為の間のギャップは常にあったという。『近年、秩序と統制の動きが強まってきている』と渥美さんは語る。」……「新潟県中越地震の頃から自治体と社会福祉協議会がボランティア・センター(VC 通称「ボラセン」)を開設して調整をする仕組みが定着。2016 年官製指導による JVOAD(読み方「ジェイボアード」)「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク」(2016 年 11 月 1 日)が発足」……「明城哲也事務局長は『登録ボランティアはバスで被災地に通って支援活動している。被災地で寝泊まりし、何度も自分で通って住民との関係を深めるといことがないの、濃密なつながりが生まれにくいのは感じる』と話す。」「『日本経済新聞』紙(2024 年 12 月 1 日)の中で、ボランティア文化に陰りがあることが渥美さんの発題によって浮き彫りにされました。『神戸新聞』(2024 年 2 月 19 日)でも、渥美さんは、「行政側は『混乱』と捉え、全て管理したいという空気がその後、出てきた」と指摘し、続けた。「市民を信じない風潮が根底にある」、とも嘆かれました。

前述の村井雅清さんも言われました。孤立集落が点在する今回こそ「阪神・淡路大震災時のように、組織だけではなく一人一人に寄り添う細かな支援が必要だ」、「行政が『来ないで』と発信するばかりでいいのか。阪神の教訓が生きていないように見える。個人の自発的な力をもっと活用すべきだ」、と語られました。組織は 2 年ほど経ると、よどんでいきます。影も形もなくなることが多いです。

2024年(令和6年)1月17日

北陸 中日新聞

能登半島地震 公立高入試は一部変更

1-17 次は助ける番

倒壊した輪島市の五島屋ビル横で祈る筆者を記者が撮影。『北陸中日新聞』(2024 年 1 月 17 日付)。

2024年(令和6年) 1月17日 水曜日・赤門 読者とボランティアの日

0120-461051

北陸中日新聞

毎日新聞 2024年(令和6年)1月17日

避難所となっている輪島市ふれあい健康センターで、阪神と阪をやるボランティア団体、神戸国際支援機構のメンバーが、輪島市河井町で16日

神戸から恩返し 輪島で炊き出し

能登半島地震で被災した石川県輪島市の避難所となっている市ふれあい健康センターで16日、国内外の災害被災地などで活動するボランティア団体「神戸国際支援機構」(神戸市垂水区)が炊き出しを行った。17日に発生から29年を迎える阪神大震災の際、全国のボランティアに助けられた「恩返し」という。代表の岩村義雄さん(75)は「輪島の朝市通りの火災は阪神大震災のようだった。今こそ助け合いたい」と話した。20~70代のボランティア10人が

正午過ぎに豚汁とご飯約300食を作り、熱々のまま避難所の中に届けた。避難所と自宅を行き来する近所の大谷隆重さん(85)は「地震が起きてからはめったに温かいものを食べられない」と笑顔だった。ボランティアの岡悠植さん(31)は兵庫県尼崎市。「阪神大震災当時は2歳だったが、家族から『全国のボランティアの皆さんが炊き出しをしてくれてうれしかった』と聞いている。自分たちにもできることをしたい」と意気込んでいた。【安西李姫、写真も】

筆者も発題を取り上げていただいた一部の紙面を紹介します。「『官』が有償ボランティア、交通費支給するようになった中越地震以降のボランティアの働きを見直さねばなりません。無代働きの働きが本来であるからです。自衛隊など『官』にすべてを丸投げするのではなく、日本人すべてが無関心

ではなく、痛み、苦しみ、怒りについて共苦する縁が求められます」(「キリスト新聞」2024年1月9日)。「プロとアマを区別してしまう壁ができあがってしまった」(『神戸新聞』2024年2月19日)、「ボランティアが社協などの下部組織となっている……ボランティアは一人一人が自主的、無償でどう動くかだ。行政がコントロールしようとするれば活動は受身になり、さらに自粛が進む」(『東京新聞』2024年3月12日)、「支援は基本的にマンツーマン、人が人に寄り添うものです」(『日本経済新聞』2024年12月1日)という発信も報じられました。

スペイン・バレンシアや諸外国のように、ボランティアを仕切る組織・指示系統・管理体制は無用の長物と現場の私たちは声を大にして指摘していきたいと思います。

組織で動くのではなく、みんなが自発的に動きます。諸外国のように女性たちも年齢に関係なく被災地で働いています。組織中心だと、個々の感性が発揮できません。

被災者との接点は、一人ひとりでなければならないでしょう。

どこで何をするか、社会福祉協議会(社協)、ボランティア・センター(VC 通称「ボラセン」)、JVOADにお伺いを立てないといけない構図は撤廃すべきです。

通例、役所の人たちは、食材、電気系統、上下水道などの復興には適役です。一方、避難所、在宅被災者、被災家屋など現場で直接、取り組み、コミュニケーションをとるのはボランティアの方がはるかに機転が利きます。役所は、地域の連絡、情報の伝達、分配に専念すべきです。行政はボランティアを補佐するような構造に転換すべきです。活動の棲み分けにより、被災者のうめき、悲しみ、怒りを共有し、有機的に補完しあうようにすべきです。

2015年、鬼怒川水害ボランティア⁴⁵で体験したことは参考になります。日光市の役所の方たちは他の被災地とは異なっていました。ボランティアに命ずる構図はありませんでした。神戸からの16人のボランティアに被災現場の状況を説明し、地図や、行き先、必要人数をボランティアに委ねる低姿勢の態度が貫かれていました。上意下達ではなく、ボランティアに難局を委ねる空気がありました。おかげでボランティアは迅速な行動で現場に急行することができました。つまり役所は、被災現場の住民の苦しみをよく理解し、何が必要かを心得ておられたのです。「私たちが何もかも司る」、「仕切る」、「命令する」、という空気はありませんでした。心ある行政は、被災者を決して「忘れられた」存在にしないものです。安心して、ボランティアは作業終了後、「後ろ姿でにっこり」の感謝の気持ちで立ち去ることができました。

2019年、台風15号が千葉県を襲いました。館山市布良地区の住民約200人の屋根などが強風で飛んでしまっていました。神戸国際支縁機構は、現場で鳴田政雄連合区長に最大の被害場所、被害者などを尋ね、一軒ずつブルーシート張りに向かいました。布良には館山市役所の社会福祉協議会(社協)や、ボランティア・センターが来ていなかったおかげで、ボランティアを管理するシステムになっていませんでした。多くの被災者宅でケアを含めて、自発的に屋根の修理などに取り組むことができました⁴⁶。あれから毎月のように漁ボランティア、傾聴ボランティアで訪問し、住民と良い関係ができています。

(3) ボランティア文化の継承

a. 苦縁

神戸国際支縁機構は国、県から助成をいただいていません。月に200円の維持会費は、被災地で築かれた新しい家族、行動に賛同なさる方々、団体、個が支えてくださっています。他人から恵んで貰うなんて情けないと思われませんか。一方的な受身になるなら、そう考えるのが普通でしょう。

⁴⁵ 季刊誌『支縁』No.20(2017年2頁)。

⁴⁶ 『キリスト新聞』(2019年10月21日)。<http://www.kirishin.com/2019/10/20/31258/>

しかし、ボランティアは恵みを受けるために人助けをしているのではありません。むしろ時間、体力、交通費などを喜んで献げています。恵みを与える側です。ですから本来被災者から「ありがとう」の言葉だけでいいのです。

1月6日、「建物が全壊になった日本基督教団の輪島教会も訪問。会堂は床のひび割れや壁の剝離などもあって足の踏み場がなく、新藤豪牧師は『もう再建は難しい』と肩を落とされていました。その後私たち一行は、約200軒が焼失し焼け野原のようになった観光名所、朝市通りの案内を新藤牧師から受けながら、崩れた道路や民家などを見て回り、現地の人々と会話。14日以降に再び支援に来ることを約束しました。『今現地で必要となるのは傾聴ボランティアだ。物資を提供するだけで無関心にならず、日本全体で痛みや怒りを“共苦”する感性が求められている』と訴えた⁴⁷と報じられました。

「共苦」とはどのようなことでしょうか。

「もし子供であれば、相続人でもあります。神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です。キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです。」(ローマ 8:17)。

「現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないわたしは思います」とパウロの生き様は、「現在の苦しみ」⁴⁸から出発します(ローマ 8:18)⁴⁹。「石の叫び」に対する共感、共に苦しむことを伴います。そのことをキリスト教倫理の大家ゲルハルト・リートケ[1937-]は的確に定式化して次のように述べました。「被造物とのわれわれの連帯は、共通の苦しみの連帯だけではなく、より弱い者の苦しみを共にし、それを和らげることのうちにも存在することが、示される」と⁵⁰述べています。

アジア最貧国ネパール、アフリカのガーナなどにはおびただしい孤児がいます。「みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まることなく自分を守ること、これこそ父なる神の前に清く汚れない宗教です」(ヤコブ 1:27)。〈イスラーム教、キリスト教、ユダヤ教、諸宗教、神戸国際支縁機構〉の「縁」は、そのような水準の「共苦」とつながっています。「共苦」はまた、「苦縁」でもあります。

「共苦」こそ「利他」⁵¹、エンパシー、支縁の意識の根源です。

「イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、憤りを覚え、心を騒がせて、……涙を流された」(ヨハネ 11:33-35)、と記録されています。宗教者であろうとなかろうと、哀しみの息により、横隔膜の筋力が弱っている人に出会うならば、感情移入するものです。「最後に言います。皆思いを一つにし、同情し合い、きょうだいを愛し、憐れみ深く、謙虚でありなさい」(Iペトロ 3:8)の気持ちに揺り動かされたいのです。「同情し合い」(ギリシャ語 συμπαθής *スムパセース* *sumpathes* 「共に」+「痛む」の意。英語 *sympathy* <同情、あわれみ、同感>の語源)が動機になります。つまり、洋の東西を問わず、老いも若きも同じ痛みを共有し、共苦を自然体で表します。「思いを一つ」(ギリシャ語 ὁμόφρων *ホモフロン* *homophon* <横隔膜を一つに>)の意)になってはじめて他者との間柄性が生まれます。

したがって、苦縁には、社会的な資格、学歴、技術は重要ではありません。へりくだりの精神が何よりもたいせつです。他者のために役立ちたいという志があればだれでもできます。

ボランティアは専門家でなければならないというわけではありません。弱っている人に感情移入

⁴⁷ 『文化時報』(2024年1月16日付)。

⁴⁸ 「苦しみ」のギリシャ語 πάθημα *パセーマ pathema* <パセイマタ *pathemata* の複数形>。パセイマタは、受動的に経験する事柄、特に苦しい経験、つらい経験、苦難の意。スムパスコー συμπαύω <σύν「共に」+ πάσχω「苦しみを受ける、苦難を経験する」>「共苦する」の名詞形。パトスの類義語。

⁴⁹ 拙稿「共苦」(『朝暉』2014年10月1日付)。

⁵⁰ 『生態学的破局とキリスト教』ゲルハルト・リートケ 安田治夫訳 新教出版社 1989年 217頁)。

⁵¹ 「利他主義」(英語 *altruism* アルトルイズム)は19世紀のフランスの社会学者オギュースト・コントによる造語。

できる人ならば特別な資格，訓練，知識がなくても務まります。つまり最も大切な資質は心です。なぜならば，辛い思いをしている人と横隔膜で接するからです。

2011 年からの学生たちの東北ボランティアでの働きを通じて，確信していることがあります。まったくの素人であっても，被災地では強力な助けになります。道路を造ったり，破壊された岸壁を修復したり，手術などの医療を施すわけでもありません。家族，友，家屋を失った人たちのそばに存在しているだけです。「人間」に居合わせているようにします。孤独さ，不条理な死，明日の生活を不安な人たちと向かい合います。

「独りぼっちではないんです」。「神戸の僕たち，私たちは続けて来ます」。

「みんなで乗り越えましょう」，と心でつながる契機，「支縁」が「死」んだ生活に息吹を吹き込みます。共生，共苦，苦縁によるコミュニティの誕生です。

b. コメは自給自足に

石川県輪島市から東へ約 8 キロメートルにある白米町しろよねに世界農業遺産せんまいだがあります。「白米千枚田」です。竹上浩幸さん(62 歳)は，先祖代々，能登ヒカリを作ってこられています。ご自身の家は山崩れで2箇所ふたところの建物が損壊しています。日本海をのぞむおよそ約 2 ヘクタール(約 28,036 m²)の斜面(高低差 56 メートル[19 階建てビル])は急斜面です。1004 枚の小さな棚田⁵²が連なる日本の原風景があります。田んぼはたびたび地滑りしてきました。斜面を何段にも分け増してきました。中には 50 センチの小さな田もあります。農機具は入れられません。緑の幾何学模様は絶景です。栽培は昔ながらの手作業⁵³です。古謡「田植えしたのが九百九十九枚，あとの一枚藁の下」が唄われてきました。細かい「千枚田」の水は最上部の用水から竹樋たけどいを敷設して助け合ってきました。今年はいろいろと復旧に手が回らずなんとか 200 枚が収穫できました。

棚田は，ネパール，モロッコ，スペイン⁵⁴にも散見されます。

日本のコンパクトな田んぼは，縮み志向の文化を感じさせます。

韓国の初代文化相の李 御寧⁵⁵ [1933-2022]は，日本でもベストセラーになった『『縮み』志向の日本人』の著者です。たったの十七文字に広い宇宙と四季の時間をあらわした俳句は，「縮み志向」をあらわす日本文化のテキストと言い得たのは活眼です。日本人志向と美学を揺り起こしました。

話はそれますが，東日本大震災以降，阪神間の学生たちと東北へ同行したとき，思いがけない発見をしました。学生たちが帰神した際，家族にどこへボランティアしに行っただかを説明できない現象です。私たちが今に至るまで，「田・山・湾の復活」で汗を流している地は「渡波」です。ところが，参加者はどうしてかすぐに思い出せないのです。「渡海」，「波……打ち」など。ヒントは「石巻」の発音にあると言うと応えられるのです。「の」が入るのです。東北六県の三大被災地⁵⁶のひとつ，「門脇小学校」も地元の人たちは「かどのわき」と発音されます。石巻市の日和山公園ひよりやまに石川啄木

⁵² 「棚田」Rice terraces は「千枚田」の別名，傾斜地にある田んぼのこと。拙稿『季刊誌「支縁」』No.20(九州北部豪雨 2017 年 2 頁)。拙論「災害対応は上からではなく、『民の自発性』に委ねよ」(第 2 次能登半島地震ボランティア報告 2014 年 1 月 神戸国際支縁機構 4 頁)。拙論「自然，被災住民，棚田を守らない官指導—第 2 次九州松末ボランティア」(2017 年 7 月 16 日-19 日 4 頁)。

⁵³ 『人吉新聞』(2020 年 8 月 27 日付)。

⁵⁴ マジョルカ島，リバダビア，ラ・アルプハハラ地方(La Alpujarra)など。モルタルを用いず，その地域の原石そのものの形，重さを活用して積み上げる技術だから，生態環境に優しく接してきた。熊本城など建設に用いられた「穴太積み(あのうづみ)」と同じ工法である。2004 年 3 月 28 日，新名神に穴太積みというコンクリート工法と異なる日本古来の石積みが用いた。コンクリートは 200 トンの圧力で亀裂が入る。一方，石積みは 250 トンにも耐えることから採用された。拙論「第 7 次熊本・大分地震ボランティア報告」。<https://kisokobe.sub.jp/wp-admin/post.php?post=8852&action=edit&classic-editor>

⁵⁵ 文芸評論家，韓国の初代文化相。1982 年発売『『縮み』志向の日本人』。『菊と刀』に並ぶ外国人による日本文化論の傑作。『『縮み』志向の日本人』(李 御寧 講談社学術文庫 2010 年 42 頁)。

⁵⁶ 神戸国際支縁機構が 2011 年以降，東日本大震災の三大被災地と専断でボランティア参加者に語り継いできた。福島第一原子力発電所のメルトダウン(炉心溶融)地帯，二番目に宮城県石巻市立大川小学校，三番目に宮城県石巻市門脇，南浜町。

[1886-1912]の碑があります。『砕けては またかへしくる大波の ゆくらゆくらに 胸おどる洋』では「大波」で切らずに「の」という鼻音を付記しています。啄木は「一握の砂」の冒頭にも「の」を反復しています。「東海の小島の磯の白砂に」を英語にすると所有格助詞“of”(～の)が 3 回接着剤のように出ています。他の言語に「の」を用いて直訳すると、詩ではなくなります。李先生は“の”がすなわち、あらゆる考えや形象を縮小させる媒介語的な役割を果たしていると指摘されました。「の」は所有格をあらわす助詞ではなく、何かを収縮しようとする意識の働きというわけです。著書に接するまで、日本人自身が「縮み志向」について不知不識であったとは不見識でした。

ボランティア自粛, SNS の選挙, 能登半島に防潮堤建設案⁵⁷など無定見では困ります。珠洲市寺家の出村正幸さん(47 歳)は防潮堤には反対しておられます。世界一美しい能登半島をコンクリートで東北のように損なう動きがあります。建設に絡む巨大利権に群がる独占資本が忍び寄っています。なぜ能登が美しいのか, 工場排水がないからです。日本列島の中でも数少ない残された絶景の地です。住民投票を 10 万筆集めて住民が反対しても, 知事は防潮堤を押し切ることができます。

c. 南海トラフに備えて 「土」に還る

「土地倫理」(Land Ethic ランド・エシック) は動物解放において不可避の課題です。アリストテレスの時代から「人間中心主義(anthropocentrism)」的な見地は定着してきました。21 世紀は、「環境中心主義(ecocentrism)」への警醒が求められます。ニンゲンと「被造物」⁵⁸(ギリシア語 κτίσις クティシス ktisis)は土地を分かち合い共生するのです。

今までのような貪欲な土地収奪, 利益の手段としての価格操作, 森林破壊から転換する責任があります。土地の所有にしても, 経済的に購入売買という現代人の発想は格差社会を生み出します。「贈与」による交換は土地所有の悲劇を避けることができます。筆者が 2015 年, サイクロン「パム」という南太平洋史上最大の災害の時, 孤児の家を建てるためにバヌアツを訪問しました。2 度目に, 先祖伝来の土地を商品としてではなく, 分け与えてほしいと切り出しました。マモン酋長は雨が降り出したので, 熱帯にしかない大きな葉っぱの下でだんまりと無口でした。沈黙が続きました。日本からサイクロンの被害者のために得にもならないのに来ていること, 孤児たちも酋長になんのお返しもできません。雨上がりの青空, 虹を背景に大きな黄色のモナク蝶がその「場」を舞い出しました。酋長はほほえみ, 筆者にいきなり握手を求めました。土地贈与が決まった瞬間です。バヌアツ, ネパール, ガーナにしても土地購入は, 国の大統領や官僚制⁵⁹でも関与できません。神聖不可侵の領域です。後日, 酋長はただ一言。「あの時, 蝶が, と⁶⁰。

「カヨコ・チルドレン・ホーム」のために土地を贈与してくださったのです。建造費は神戸国際支縁機構が負担しました。孤児のホーム建設に着工し, 半年後の開所式には, バヌアツ・テレビ, 新聞が報道しました⁶¹。

⁵⁷ 拙稿「田・山・湾の復活(その八)」(季刊誌『支縁』No.10 2015 年 4 頁)。

⁵⁸ クティシスは「創造(創設)されたもの, 被造物, 造られたもの, 世界, 制度」。拙論「原発は子々孫々に禍根を残す—第 4 次 1.1 大震災報告」(エラスムス平和研究所 2024 年 6 頁)。田んぼの植物, 畦の生き物, 石ころを「聖なるもの」とする見方が回復されねばならない。「聖なるもの」とは, 災害の度によくメディアに登場する「創造的復興」の「創造」なされた方に関係があると理解するのが自然。なぜなら農地, 自然, 生き物は被造物だから。

⁵⁹ 組織の自動機械としての「官僚制(bureaucracy)」が存在する。これは, 大組織を円滑に機能させるために合理的に形成された「フォーマルな組織」。そのなかに働く人々は, 自らの仕事の範囲を明確に区分され(権限の法則), 上下の関係(ヒエラルキー)は明確に位置づけられている。『技術社会と社会倫理』(村田充八 晃洋書房 1996 年 35 頁)。

⁶⁰ “話し合いのとき降っていた雨が止んで虹がかかっています。おもいがけず一匹の大きなモナク蝶がそこを祝福するかのよう飛んでいました。酋長もその感動的な場面はよく覚えておられました。「あの時, 先祖からの大切な土地について決定したことは神様の思召召しだった。蝶と虹がその場所に現れたので間違っていないかった」と言われました。”拙論「第 4 次バヌアツ・ボランティア報告 2018 年 4 頁)。

⁶¹ “DAILYPOST” Vanuatu, Dec.7, 2015, VBTC TV, Dec.6, 2015。

聖書には、「目には目」という等価交換の償い、裁定、同害報復があります⁶²。アンビバレンス⁶³な例が聖書に散見されます。見返りを求めない贈与、気前の良さ、相手の人格を巻き込む交換関係についても例示されています。

アブラハムは妻サラを埋葬するための土地を購入するために, **מְעָרָה הַמְּכַפְּרָה** マクペラ⁶⁴ ハメアラ *makperah ha mearah* をヘテ人エフロンに交渉しました。「十分な代価をつけてお支払いしますので、あなたがたが所有しておられる墓地を譲ってください」(創世記 23:9)。エフロンは応えます。「あの畑地は差し上げます。そこにある洞窟も差し上げます。……どうか亡くなられた方を葬ってください」(同 11 節)。「畑地の代金はお支払いします。どうかお受け取りください」(同 13 節)、とアブラハムは対話しました。近代経済学と異なります。

非合理的な「贈与」の在り方は市場経済では成り立ちません。アブラハムの交渉は土地が単なるモノではありませんでした。霊的価値を含むように異次元交換になっていました。損得の駆け引き、弱者に対する抑圧、貪欲な狡猾さとは次元が異なります。甲と乙の間には「寛容」な精神態度、笑顔、信頼関係が裏打ちされています。甲乙の当事者が逝去した事態も考慮しています。契約社会 **Contract Society** として身分社会における貧しい者を守る取り決めがなされます。「隣人を虐げてはならない。奪い取ってはならない」(レビ記 19:13)の規範があります。

たとえば、聖書には土地にも安息年を設けるように定めています。内村鑑三[1861-1930]は「神はその造られた土地を愛され、土地がいつまでも人類に濫用されるのを許されない。人間が進んで神の意志を尊重して土地に安息を与えることがなければ、神が自分で安息を与えられるのです。飢饉の年は土地にとっては安息の年である」⁶⁵、と。内村にとり、洪水による堤防決壊などの災害は人間には災害だが、土地にとっては逆に幸福だと言うのです。「霞堤」⁶⁶という日本の古くからの洪水を利用して、河川近くの田畑に有機物を運ぶ先人の知恵を想起なさることをお勧めします。

自然の川は魚など水中生物のフィールドです。川は生息地です。アイヌ、ネイティブ・アメリカンや先住民族にとり、川は食糧、薬や文化的な営み、儀式、伝統にとり重要です。多くの野生植物にとっても、川辺、沼地や生態系は自然システムをまもってもらう権利があります⁶⁷。

人間、動物、植物も枯死します。「息を取り去ると、彼らは息絶えて塵に帰る」(詩編 104:29)とありますように、土に帰るわけです。バクテリアによって、分解されます。構成要素⁶⁸、微量元素も土の成分に戻ります。生き埋めになった人の遺体は見つからない場合、堆肥葬になると言えるかもしれません。アブラハム、イサク、ヤコブの時代は家父長制度(patriarchy)でした。埋葬場所、墓もありました。墓は購入してきました。空にかかった虹、三色の秋の森、頬をなでる薫風の感覚は、死後も持ち続けられるのでしょうか。

樹木葬、散骨、墓石のない自然葬が増えています。しかし、一旦は火葬にするのが普通です。火葬にせず、「土に帰る」(堆肥葬)という葬送を被災地で黙想することがありました。「塵は元の大地に帰り、息はこれを与えた神に帰る」(コヘレト 12:7)に書かれているように、森そのものが墓になる

⁶² “目には目を”は全世界を盲目にしているのだ」(マハトマ・ガンディー [1869-1948])。拙論「現代キリスト教弁証学」(中央聖書神学校 Central Bible College 2023 年度 14 頁)。

⁶³ 拙論「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか」—第 2 章 (WCRP 平和大学 2022 年 19-21 頁)。「相反する感情や考え方を同時に心に抱いている ambivalence ドイツ語アンビヴァレンツ(ambivalenz)に由来。

⁶⁴ 現在のパレスチナ自治区のヨルダン川西岸の都市ヘブロン。

⁶⁵ 『自然的世界とキリスト教』(笠井恵二 新教出版社 1999 年 218 頁)。

⁶⁶ 拙論『川と人間の相克と共生』(『福音と世界』誌 新教出版社 2022 年 12 月号 33 頁)。「霞堤」:洪水を河川に封じ込めるのではなく、流域全体で受け止めるという発想。天然の肥料を河川流域にもたらす。

⁶⁷ 拙論「技術至上主義は自然破壊をもたらす— 第 1 次北海道地震ボランティア —」(2018 年)。

<http://kicc.sub.jp/wp-content/uploads/2017/08/6fd475dd9fe0e47f708cfde21a50a5d6.pdf>

⁶⁸ 人体の構成元素酸素(O)、炭素(C)、水素(H)、窒素(N)、カルシウム(Ca)、及びリン(P)の 6 つで 98.5%。他に、微量元素 鉄(Fe)、亜鉛(Zn)、銅(Cu)、マンガン(Mn)、クロム(Cr)、モリブデン(Mo)、セレン(Se)、コバルト(Co)、ヨウ素(I₂)などがある。

ことは可能かどうかという発想です。神戸で 2011 年から「死の講座」⁶⁹を主宰した中で培われた死生観です。“「死後もエコ」が広まる米国”，と『日本経済新聞』(2023 年 5 月 5 日)で、紹介されました。堆肥葬のため、存命中は無農薬、有機、除草剤なしで生育された食物を摂取するとか、火葬で排出される二酸化炭素(CO₂)をなくすなど地球温暖化対策にもつながります。土地倫理の究極は、死者を土に返す新たな葬送です。南海トラフで何万人にも及ぶ遺体処理は火葬場では不可能です。東日本大震災で証明済みです。防災の視点からも、「民」の合意が得られるかどうか模索しながら、若い世代、女性、自然環境を尊重する人たちだけで決定するものではありません。限界集落から消滅集落の時代に、宗教者、環境保護論者、研究者を含めて「いのち」の終章を考えてほしいです。

前述の輪島教会の新藤豪牧師は、震災後、教会の信者たちが礼拝にあずかりたいと願っていると行く度に言われていました。しかし、礼拝堂、牧師館、手洗いも倒壊して危険な状態でした。解体も順番待ちでした。しかし、第 6 次能登訪問までに、ジャンボクレーンで合体し、5 メートル四方の小さな仮りのいおりのような教会が、解体前の教会と牧師館の間に建造されていました。礼拝が 5 月以降、再開しています。

すっかり能登になじんだ新藤豪牧師は言われます。都会と違って能登はいいところですよ。一番目に、人間があたたかいこと。二番目に新鮮な野菜、魚があり食べ物がいいこと。三番目に、交通渋滞がないから最高だとおっしゃいます。

つまり人間を本来の感性へと再認識させる重要な契機は自然環境にあります。

<結論>

トランプ時代へ世界は舵を切りました。超大国が自国第一を掲げることになります。政治、外交、国家間の交渉は「ルールよりディール」が判断の規準になります。トランプの完勝は、宇宙船地球号の軌道の「戦間期」の終焉になろうとしています。IT イノベーション、金融経済、グローバル市場の伸張は急速に進む人類の叡知の開花の可能性に影を投げかけています。ワシントン・コンセンサスの市場中心的政策⁷⁰を地球全体に拡散してきました。しかし、アメリカ合衆国域のみの地政学のエピソードではなくなりました。国際政治の趨勢が「国際主義」から「民族第一主義」にユーターンする兆しが回帰しています。たとえば、南北格差、難民移動、核の脅しにより、庶民の不満、焦燥、怒りは沈静化するどころか、極左か極右へ分離が一層明瞭になっています。史上初の総力戦の結果、兵士の死者 1000 万人、負傷者 2000 万人、民間人 500 万人の犠牲をもたらした第一次世界大戦[1914-1918]から第二次世界大戦までの「戦間期」は約 20 年でした。1945 年からの戦間期 80 年の幕引きは、「選挙の年」2024 年と考えられます。EU、フランス、英国、インド、韓国、そして日本の衆院選、兵庫県知事選に共通しているのは、与党の敗北です。1月7日のバングラデシュ総選挙を皮切りに 80 カ国で国政から地方まで空前の選挙を実施。有権者は 45 億人です。過半数となります。日本でも安倍晋三政権の清和会も選挙を免罪符に当選。萩生田光一[1963-]議員、西村康稔[1962-]議員、世耕弘成[1962-]議員もバッジを外さずに済んでいます。選挙イコール民主主義とは言えず、むしろ民主主義の形骸化⁷¹が広がっています。「利他」ではなく、セルフイッシュ「自国第一主義」です。ナショナリストたちの政党は、SNS⁷²を用いて、選挙で勝利し、権力を手に

⁶⁹ 「みんなで『死』を考える会」は、神戸新聞社から 2011 年 3 月に依頼され、ミント神戸 17 階で、医師、法律家、宗教家を招いて 4 月から開始。 <https://mamowth.com/about/>

⁷⁰ ワシントン(政治)とウォール街(金融)とシリコンバレー(IT)が三位一体となる新自由主義経済。「神なき時代の『終末論』(同書 2024 年 95 頁)。

⁷¹ 週刊『世界と日本』(2024 年 5 月 6 日 内外ニュース 千野境子)。

⁷² 混在する事実とデマが SNS からあふれ出す。この国の「ポリテイクス」(政治)は今、大きな転換点できしみを上げている。『西日本新聞』(2024 年 11 月 28 日付)。

入れました。司法, 行政, 社会秩序, メディアを掌握して独裁に近い体制⁷³を敷こうとしていないでしょうか。為政者は災害のいのちを支えているでしょうか。現場に寄り添っているでしょうか。復興, 復旧, 再建システムはだれによって, 指示されていますか。地道な〈生活防災〉⁷⁴も求められています。

中東で孤児の家のために訪問しているシリアも風雲を告げる体制崩壊です。日本の隣国でも大統領が戒厳令を発しました。北朝鮮の孤児の家はどうなるのでしょうか。ロシア・ウクライナ戦争, イスラエル・ガザ戦争も泥沼状態です。

神戸国際支縁機構の理事島菌進さんは、石牟礼道子[1927-2018]さんの『苦海浄土一わが水俣病』をよく引用されます。「うちゃその舟ば曳いて, 大学病院の廊下ば, えっしーんよい えっしーんよい ちゅうて網のかけ声ば唄うて曳いてされきよったとばい。自分の魂ばのせて, 汚染された不知火海のような苦海の中にあって, なおも「魂」が浄土を希求できること, 苦海を浄土に変容させる力となるかもしれない石牟礼さんの執念を説かれました⁷⁵。

渾沌, カオス, 無責任の時代にあって, 石牟礼さんのようにこつこつと土と格闘していきます。災害地において, 痛みつけられた人々に団体, 組織, ヒエラルキーで接するものではありません。被災者との接点は, 一人ひとりでなければなりません。

原稿を翌週, 神戸国際支縁機構の村田充八理事に校正していただきました。また不明瞭な箇所について訂正していただきました事務局の村上裕隆氏, 翻訳家徳留由美氏, 佐々木美和氏にも感謝します。

パイポルタにおける神戸国際支縁機構ボランティアについて, 下記のメディアが報じました。

『日本経済新聞』(2024年12月1日付)。

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF114Z90R11C24A1000000/>

『NHK』(2024年12月12日午後5時9分)。

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kobe/20241212/2020027252.html>

『クリスチャンプレス』(2024年12月18日)

<https://christianpress.jp/shien-no-machi-1217/>

『朝日新聞』(2024年12月18日付)。

<https://digital.asahi.com/articles/ASSDK3SN2SDKPIHB00RM.html>

⁷³ 『2030年ジャック・アタリの未来予測』(ジャック・アタリ 林昌宏訳 株式会社プレジデント社 2020年 75頁)。

⁷⁴ 『防災・減災の人間科学』(矢守克也・渥美公秀編 新曜社 2011年 231頁)で, 矢守克也さんは「生活防災」を発信。『災害に向きあい, 人間に寄り添う』(室崎益輝 神戸新聞総合出版センター 2022年 76頁)で, 室崎さんは〈現場主義〉, 〈体感主義〉の温かい心, 冷静な頭, タフな身体により「生活にも災害にも強い人間」になることを提唱。

⁷⁵ 「限界意識とケアのスピリチュアリティ救いの宗教の後に来るもの」(島菌進 阪神宗教者の会 ZOOM オンライン 2024年)。